

こころざし

第58号

令和 2 年10月

発行 高知厚生病院
広報委員会

◆ 高知厚生病院グループの理念・基本方針 ◆

理 念

敬天愛人

基本方針

1. 地域の皆さまの尊厳を護り、心の通う医療と介護を実践します。
2. 自己研鑽に努め、自らと組織の発展向上を目指します。
3. 地域連携を進め、効率的に働きます。
4. 地球環境に留意し、災害に備えます。

夏の終わりに・・・雑感

院長 山口 龍彦



長かった梅雨の後の、長かった暑い夏が台風の到来で終わろうとしている。

今年が始まったと思ったら、コロナ禍に翻弄されるうちに季節はどんどん過ぎて気がつけば秋も深まって、昼はツクツクボウシ、夜は虫の声の太合唱が始まっている。コロナを含め、さまざまな忙しさにかまけていて、本来すべきことは何も成し遂げていないのに、時間だけは確実に過ぎてゆく。

さて、今年は戦後 75 年の節目の年であった。様々な媒体で数多くの太平洋戦争の思い出が語られていた。しかし、当時を大人として経験し、それを語ることができる人はもういなかった。当時、子供だった時の目で見たことを語ることができる人もごく少数になってしまっている。

日本の政治を長らく率いてきた安倍首相も退陣が決まり、次の首相が決まるまでの短い時間。「安倍首相率いる内閣の一番大きな功績の一つは歴史観を正そうとしたことだ」と櫻井よしこ氏が 9 月 7 日の産経新聞に書いている。安倍首相が平成 27 年の戦後 70 年談話において「私たちの子や孫、その先の世代の子供たちに、謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません」と語られたことに触れ、日本国民が自信を持って世界の中で活躍できる時代を築くために努力した首相であったことを国民も知っていたことを強調しておられた。それは退陣表明直後の世論調査で、安倍首相の支持率が 71%（朝日新聞調べ）に跳ね上がったことが証明していると。

当時、日本が戦争をするに至ったのにはそれなりの理由があった。歴史はその当時の状況の中で考えなくてはいけない。私も「私たちの先祖は決して他国を侵略しようとして戦争を始めたのではなかった」ことを知っている。

第 2 次大戦前の日本を取り巻くアジアの状況はどうだったか。日本とタイ以外は全て欧米列強の植民地となっていたことをどれだけの今の日本人が知っているだろうか。太平洋戦争の結果、アジア、アフリカの多くの植民地が独立国となることができたこと。そして、一部を除きその多くの国々が当時、日本に感謝してくれたことを知っているだろうか。

私たちの子や孫や、その先の世代の人たちには、日本人としての誇りを持って次の時代の日本を創って欲しい。日本は世界にとって貴重な存在であることに誇りを持って生きて欲しい。そのために、歴史観を正してゆきたい。自虐史観はなんとしても取り除きたいものだ。

心清くあること、勤勉に働くこと、また、神社にもお参りをするし、お彼岸などにはお寺からお坊さんに来てもらって先祖供養も怠らないなど、信仰心に満ちていることは日本人の美德であり、その美しい日本を守るため、家族を守るため、私たちの先祖は命がけで戦ったのだ。当時の日本人たちは、本当に大切なものを自らの命を犠牲にしても守ってくださった。この日本人の美德は、なんとしても孫子の代まで伝えていきたいものだと思う。

「赤ん坊でもやがては死ぬんだなあと思った時、自らの死を怖いと思わなくなった。」これは、末期の癌を告知された方が、一晩泣き明かして掴んだこととして語ってくださった言葉だ。私も死ぬことは怖いことではないが、やらなければならない事をやらずしてこの世を去らなくてはいけないとしたら悔いが残る。

やがて来る、自らの死の前になすべきやり残した仕事は何か？

やなせたかし氏も伝えてくださっていたように、人は皆、それぞれの目的（何のために生まれて）と使命（何をして生きるのか）を持って生まれてきた存在だと思う。（答えられないなんて、そんなのは嫌だ。）

光陰矢の如しと言われるとおり、時間が飛ぶように過ぎ去ってゆく。今まで導いてくれた人生の先輩方もいつの間にかいなくなってしまった。

自らを振り返ると、人生の季節も夏を過ぎ、実りの秋を迎えないといけないのに、まだ秋の実りは遠いようだ。収穫の秋を夢に見つつ、まだまだ夏が続いてくれるように祈りつつ、悔いのない1日、1日を積み重ねていきたいと願う今日この頃である。

令和2年9月10日記



電子カルテシステム導入

事務部長 明神 聡

当院では、令和2年7月20日より電子カルテシステムを導入いたしました。

導入に向けて、患者様へより良い医療を提供させていただくために、スタッフ間の連携を深めたくさんの時間をかけて、スタートに向け一丸となって頑張ってきました。

最初は、想定外のトラブルやシステム操作の不慣れにより、受付や診療・会計などで時間を要することがあり、患者様にはご迷惑をお掛けしました。しかし、スタッフの頑張りにより、それも比較的早い段階で改善出来ていると感じております。

また、外来患者様には、受付・会計などの流れの変更により、ご迷惑をお掛け致しておりますが、ご理解、ご協力をお願い致します。

当院は小規模ではありますが、患者様に必要とされるサービスを最大限のパフォーマンスを発揮し運営してきました。ただ、他の病院が取り組んでいて、うちが出来ていなかった事のひとつが電子カルテの導入でした。

厚生労働省の医療施設調査によると、電子カルテの普及率は、一般病院全体で46.7%、一般診療所で41.6%となっています。病床規模別では、400床以上で85.4%、200床～399床で64.9%、200床未満で37.0%となっています。病院全体の6割を占める200床未満の小規模病院が最も普及が遅れている状況です。

今は少しだけですが、遅れている理由がわかります。システム選定、導入・運用コスト検討、開始準備期間中の多様な項目の院内統一、システム勉強等、本当にたくさんハードルがありました。大変でしたが、



導入する事が出来て良かったです。

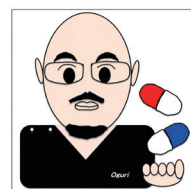
これからは、院内の情報共有や伝達がスムーズになり、スタッフの業務効率化や医療の質向上、患者様の待ち時間短縮など、より効率的な診療が行えることで、患者様サービスの向上に繋がると考えております。

ただ、まだスタートしたばかりです。今までも各部署に複数台のパソコンはあったものの紙カルテ時は、スタッフ一人ひとりがパソコンに触る機会はほとんどなく、使いこなせるまでにはもう少し時間が必要です。

患者様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

『ホスピス医のつぶやき③ ～「コロナ」が変える「当たり前」～』 緩和ケア科部長 小栗 啓義

- ▶ 「当たり前田のクラッカー！」とは、昭和40年頃に流行ったギャグであるが、現在50代後半から60代のおじさん、おばさんが今でも時々使っているようだ。前田製菓のコマーシャルに使われていたフレーズであるが、は今でも商品紹介ページに使用されているようだ。ゴロがよくて、「それが当たり前（当然）」と言いたい時に使われているらしい。



- ▶ 「当たり前」の意味を辞書で調べてみた。誰が考えてもそうあるべきだと思うこと、当然なこと。常識。普通と変わっていないさま。珍しくない様子。ありふれているさま。とある。つまり、普段の日常のなかにありふれていて、疑問をもたずに行っていること、なのだろう。
- ▶ 地球の裏側まで1日で行くことが出来るのが「当たり前」となり、80歳、90歳まで生きられることが「当たり前」となった現代。本当にそうなのだろうか？どちらも、最近の数十年の「当たり前」でしかないのではないだろうか。
- ▶ かつて、昭和10年代の日本での軍国主義の「当たり前」が、敗戦によって一瞬で崩れ去ったように。そんな、私たちの「当たり前」は先人がコツコツと築いてきた砂の上にあったようだ。今年、「コロナ」がそれを証明してくれた。
- ▶ 私たちの生活は一変した。ひろめ市場で大勢の人達と返杯、献杯とお酒を酌み交わし、海外旅行にも簡単に掛けた。そんな日常はもはや非日常になり、キープディスタンスという新しい言葉まですっかり定着した。
- ▶ プラスチックの過度の使用による環境破壊。原子力発電の影で廃棄方法すら決まっていない核廃棄物の増加。何百年と続く宗教間紛争など、昭和・平成と「当たり前」とされていた負の日常もある。
- ▶ 戦後の日本が、コロナ前の昭和・平成時代の日常を創りあげたように、日本は、世界は、新しい日常を、新しい「当たり前」を創りあげるだろう。もう、それは始まっているかも知れない。
- ▶ 元号が変わった令和新時代に、「コロナ」を機に、負の日常を一新した、後世に誇れるような新しい「当たり前」を模索し、創造して欲しいと願わずにはいられない。

新任先生紹介

内科 沖 勇一

今年4月より内科で勤務させていただいている沖です。出身大学は自治医大で、卒業後初期研修2年を当時の高知県立中央病院で済ませた後は本山町、旧本川村、梶原町、旧吾川村、そして仁淀川町と高知の山間部の医療機関で35年間地域医療に従事してきました。

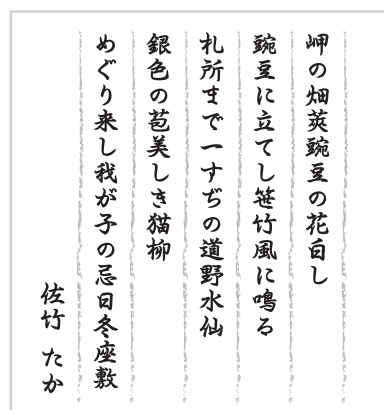
大学時代は陸上部で砲丸投げや円盤投げの投擲種目の選手でしたが、卒業後はそれらも続けながら、32歳からランニングを始め、45歳からプールに通い始め、50歳でロードレース用の自転車に乗り始め、トライアスロンにも挑戦。100kmのウルトラマラソンにも11回出場しました。しかし、年には勝てずこの数年ランニングの距離が徐々に減っていたところに、さらに今年は新型コロナの流行によりマラソン大会も開催されなくなり、出場したマラソン大会も今年2月の高知龍馬マラソンの317大会目を最後に足踏み中です。

高知厚生病院での仕事は長く地域で続けてきたものと違う点も多く、まだまだ慣れずご迷惑をかけておりますが、どうかよろしくお願いいたします。



投稿

雑詠



句評（蒲原ひろし）

『四国は土佐の早春の自然の動きをあたかも動画を見るように教えていただいた。今年は暖冬なので例年より植物の動きが早いのであろう。一句、一句が絵になる作品である。岬の畑の莢豌豆の花の描写。その支えの笹竹が風に鳴る風情の凝視。そして、野水仙、猫柳の外連味ない描写の素直さは九十五姫の作品と思えぬ美しさと余韻がある。』抜粋

先生の句評がすてきでしょうと、作者の佐竹さん。
俳句歴は60年だそうです。ありがとうございました。（乾）



当院は
平成15年9月22日より
日本医療機能評価機構
認定病院となっております。



◆ 特定非営利法人
日本緩和医療学
会より認定研修
施設として認定
されました



◆ 厚生労働省より
医師の卒後臨
床研修施設の
認定を受けまし
た

編集後記

マイブームは家庭菜園でオクラがポツリ、ポツリと収穫できています。
雨がが続くと、虫と病気との闘いになりますが、少しでも収穫し美味しく食べられると、とっても楽しくなります。



高知厚生病院

〒781-8121 高知市葛島1丁目9-50 Tel.088-882-6205 Fax.088-883-1655
ホームページ <http://www.kochi-koseihp.jp>

- 介護老人保健施設こうせい ■ 通所リハビリテーションこうせい
Tel.088-882-6205
- 訪問看護ステーションこうせい ■ 高知厚生病院健診センター
Tel・Fax.088-885-6714
- 居宅介護支援事業所こうせい
Tel・Fax.088-885-5779

医療法人 山口会

こうせい

〒781-8121 高知市葛島2丁目5-12 Tel.088-802-5530 Fax.088-802-5531

- 看護小規模多機能型居宅介護こうせい ■ グループホームこうせい